令和２年度川俣町立福田小学校学校だより

しらさぎKids NO.４２

令和３年２月２６日

文責:校長　神尾孝弘

「感謝の会」～とても温かく素敵な時間でした～

２月２５日（木曜日）。６年生が教職員全員を招待して、感謝の会を開いてくれました。今年は、感染症対策のため広い福田公民館大ホールでの開催です。会場の大ホールには、６年生の気持ちがこもった飾りがあり、素敵な席札も用意されています。手作りのおもてなしの気持ちが感じられました。会が始まると、ジェスチャーゲームやお絵かきしりとりなどのゲームを教職員と一緒に行ったり、みんなで練習したダンスを披露したり、楽しい時間が過ぎていきました。教職員からも、サプライズで６年生へのメッセージが伝えられ、それらを嬉しそうに見つめる表情が印象的でした。

これまでの感謝の気持ちを伝えようと、自分たちで考え、一生懸命に準備をしてきた６年生。一人一人が堂々と感謝の言葉を伝える姿に成長を感じました。卒業まであと少しの時間ですが、小学校生活の思い出をたくさん作り、中学校へ羽ばたいていってほしいと思います。とても温かくて素敵な感謝の会でした。６年生のみんな、ありがとうございました。

【「木の葉の舟」に思いをこめて】

２月の全校集会で、ボランティア活動の担当教員から「木の葉の舟」活動の話がありました。この活動は、東日本大震災の津波で石巻の自宅が被災した永野泉さんが、奇跡的に自宅に残った「じろはったん」という本に勇気づけられ、その話に登場する「木の葉の舟」を用いて追悼・復興を進めようとしている取組です。

集会では、「木の葉の舟」活動の趣旨を、震災の映像を交えながら、子どもたちに伝えました。震災から１０年が経過しようとしている今、改めて震災に対する理解を深め、風化させないようにしていくことは大切なことだと思います。集会の後、子どもたちは各学級で、震災で亡くなった方への思いや復興への願い、自分の将来の夢、生きていることへの感謝の気持ちなどの思いを木の葉に記しました。その子どもたちの思いは、「じろはったんの会」に送られ、３月１１日に海に流してもらう予定です。

この活動を通して、福島の復興を担う子どもたちが、大切な何かを感じ取ってくれたら嬉しいです。